

諡号「弘法大師」

空海さまご入定八十七年後、醍醐天皇は「弘法大師」という諡号しごうを下賜されます。天皇の夢枕に空海さまが現れ、破れた衣姿に痛く悲しまれ、檜皮色ひわだの衣と大師号を勅使によって東寺に届けられました。

さて、東寺の観賢僧正は、高野山奥之院にご入定なされている空海さまへ、醍醐天皇から下賜された御衣の着せ替えのために廟窟の扉を開き、空海さまの鬚を剃り、温みのあるお体に新しい御衣を着せ替えられます。このときに「弘法大師」という称号が奉奠されました。延喜二十一年（九二一）十月二十七日のこの御衣替えのときから、今年で千百年になり、高野山では本年十月十七日から十日間、「大師号下賜千百年」の記念法会が行なわれます。

昭和九年は弘法大師御入定千百年でした。このときに高野山に根本大塔が再建され、昭和天皇より「弘法」と揮毫された扁額が大塔の内陣正面に掲げられました。

今日もなお、宮中と真言宗には深いご交誼があり、大師ご入定後も全真言宗によって皇室の安寧を願い、天皇陛下の御衣加持ぎよえである「御修法みしほう」が東寺にて毎年一月八日から十四日まで行なわれています。

日本の大師号は、伝教大師、興教大師、圓光大師、見真大師、立正大師など大勢おられますが、「お大師さま」といえば弘法大師を指すほど、弘法大師空海さまは日本人の心に広く敬われています。中国では「空海コンハイターヌ大師」と呼称し、お大師さまが中国各地でも拝まれています。

なお、高野山には皇族の寺院が数ヶ寺あり、櫻池院は白河天皇の第四皇子・覺法親王さまの開基です。伽藍の前に櫻池院(旧・養智院)を創建なさり、ご生涯を過ごされました。御陵は光臺院の裏山にあります。